第１回那覇空港技術検討委員会の資料及び審議内容の意見募集に寄せられたご意見

分類	項目	寄せられた意見例
滑走路増設が必要とする意見	1,310m以上案の推薦	・ 将来的な発展を考慮すると環境面にも配慮しつつ、1,310m以上沖合展開が望ましいと考える。 ・ 航空需要への対応、県経済の持続的発展を考慮した最低必要な社会資本整備として 1,310m以上沖合展開のオープンパラレルとすべきと考える。 ・ 沖縄経済界、有識者層があげて 1,310m以上案を切望している。
	公共交通機関としての機能拡充	・ 本州と陸続きでない沖縄県にとって、空港は生活に必要な基礎的社会資本である。 ・ 人口１３７万人が暮らす沖縄は、他地域との交通手段として陸路は無く、航空・海路のみである。
	安全面	・ 現在の滑走路が一本のため、事故が起こると経済・社会機能が麻痺する。
	県経済発展	・ 沖縄の自立型経済を構築するために那覇空港の機能拡充による基盤整備を行い、観光振興と航空貨物ハブ形成を積極的に促進する必要がある。 ・ 観光・航空物流を中心とした自立型経済を確立するためには、那覇空港の機能拡充により、地理的条件を生かした交流の結節点とする必要がある。
	210m案の推薦	・ 嘉手納飛行場が存在するため空域的な運用制限は基本的に変わらないため、当面の航空需要増への対応は環境影響、費用が最小となる案を選択すべき。 ・ 瀬長島および大嶺崎地区の遺跡等については、調査の上、必要に応じて移転保存することが望ましい。
滑走路増設に当って重視・配慮すべき点	周辺の騒音対策	・ 地元住民のための騒音対策も考慮する必要がある。
		・ 主要基幹空港は「騒音問題」により、離着陸能力を制限されている事例がある。
		・ 空港周辺住民の安寧よりもサンゴや藻や希少生物を大切にするのは、環境問題を勘違いしているのではないか。 ・ 技術検討委員会へ「航空機騒音」の学者・専門家も加入すべき。
		・ 騒音問題から民航機と自衛隊機との分離し、沖側滑走路を自衛隊機専用にする利用方法を検討すべき。

	西側施設移転の回避	・ 空港施設利用業者は燃料費の高騰による経営環境の悪化に直面しており、当該施設移転の回避もしくは特例的な補償措置を行って欲しい。
	地上走行距離	・ 羽田空港のA滑走路及びC滑走路、関西空港のA滑走路及びB滑走路では 2,300m離隔していても、地上走行距離に特に問題はない。那覇空港の 1,310mを問題視するのは牽強付会の倫理である。 ・ 那覇空港独自の自衛隊機離着陸遭遇時の空中待機、誘導路待機を余儀なくされるほうが利便性、燃料・CO_2面においても好ましくない。
滑走路増設は不要とする意見	環境保全	・ 次世代まで沖縄の自然を残すため、自然海岸、希少生物の保護を優先すべき。
	軍民共用による安全性への懸念	・ 自衛隊機の事故等への懸念がある。
その他		・ 自衛隊機の存在を考慮にいれた拡張必要性の可否を検討する必要がある。
		・ 大嶺海岸の埋立について民意の確認が必要。